

# 西合志東小学校便り



校訓【元気いっぱい 温もりのある 誇れる 西合志東小】第6号

令和4年6月10日 文責：有内 弘

## 主体的、協働的活動を通して学ぶこと！

【学校教育目標】

「主体性と協働性を育み、夢の実現に挑戦する児童の育成」～可能性を力に～

5月28日（土）令和4年度西合志東小の運動会で4つの団をリードしてくれた団長さんに作文を書いてもらいました。

そこには応援団長という大役をやり遂げた喜びや苦勞、仲間との協力や絆、そして感謝が綴られていました。まさに主体的に協働的に挑戦する姿がありました。

ぜひ読んでみてください。

「団長として応援団に取り組んだこと」  
6年1組 青木結望（緑団）

私は団長として応援団で取り組んだことがたくさんあります。

1つ目は団長になって思ったことについてです。1番思ったことは思った以上に大変だったことです。応援団には6年生だけでなく5年生もいるのでまとめることがとても大変でした。

2つ目はうれしかったことについてです。私の中で団長は「1人で何でもやって団を引っ張っていく」という存在かと思っていました。けれど私が困った時にまわりにはいた5、6年生が「大丈夫？」など言ってくれたり、私が失敗しても「大丈夫だよ。これが～～」と教えてくれたり、温かい言葉をかけてくれました。

3つ目はやってよかったなあと考えたことについてです。やってよかったことは、団長になった時の経験をふだんの生活に生かせることです。みんなで団結するためにはダメなところだけを見て指てきするのではなく、良いところを見て、みんなをほめるということをするれば、団全体が明るく良いふんいきになるということも、ふだんの生活に生かせるなあと思いました。

団長になれたことが「きせき」なので、団長になった時の経験は本当に大事なものだと思います。

4つ目は苦勞したこと、悩んだことについてです。応援団をする中で応援団の友だちとけんかをしてしまいました。私はなぜだろうと1日考えたのですが、友だちとけんかをした理由がわからないまま、次の日になってしまいました。そしてその日に友だちがあやまってくれたのです。友だちが話してくれた理由は、私が「ダメなところだけを見て指てきしているから。」だったのです。なので私はその部分を直していこうと思いました。

最後につらいこともあったけれど、本当に応援団の団長になれてよかったです。応援団の5、6年生や先生方には本当に感謝しています。今まで支えて下さってありがとうございました。

「団長として応援団に取り組んで」  
6年2組 牧 蓮（赤団）

まず団長になって苦勞したこと、悩んだことは演舞を作ることです。4分間にまとめることや隊形を作ること悩みました。

次に応援団をしていく中で学んだことは1日の始めに応援団のやる気を入れるために、声を出すことを学びました。声を出すとやる気にもなるけれど、運動会当日にも大きな声が出せることを学びました。そしてどの団も4分間にすごく近く、たった2週間で仕上げたとは思えないほど、すごい演舞でびっくりしました。

最後に運動会で後悔したことです。運動会当日のタイムは4分3秒でした。ぼくは最後の一言を言いまちがえてしまい良かったです。それでも応援団のみんなが最後まで協力して取り組んでくれたから、当日いい演舞をひろうることができてうれしかったです。

毎日練習にアドバイスをいただいたり、協力して下さった先生方に感謝しています。小学校最後の運動会で、団長になれ最高の運動会になりました。

# 西合志東小学校便り



校訓【元気いっぱい 温もりのある 誇れる 西合志東小】第6号

令和4年6月10日 文責：有内 弘

## 主体的、協働的活動を通して学ぶこと！

【学校教育目標】

「主体性と協働性を育み、夢の実現に挑戦する児童の育成」～可能性を力に～

応援団は西合志東小の校訓そのままに、元気いっぱい、温もりのある、誇れる活動の1つです。子どもたちが自ら考え、アイデアを出し合って演舞をつくっていきます。練習をやりながら、意見を出し合い、修正しながら本番に向けて進んでいきました。その途中には作文にもあるように、時間に追われたり、意見がまとまらなかったり、練習が止まってしまったり様々な苦労があったことと思います。それでもどの団もそれを自分たちの力で乗り越え、協働し4分というすばらしい演技時間をつくり上げていきました。

「団長として思ったこと」  
6年3組 中村豪（黄団）

ぼくは団長になれてとてもよかったです。いろいろ空いている時間でたくさん演舞の練習をしたり、考えたり、話し合いなどをしたりしました。最初は演舞を考えることでたくさん時間がなくなり、あわてていました。でも演舞にうつると応援団のみんなもすぐに覚え、声が出ているかっこいい演舞をつくることができました。先生方や六年生のみんなの協力もあって中間発表に間に合い、本番では演舞を失敗せずに成功させることができました。

この応援団で学んだことは1人だけで考えないということです。先生からも「1人で全部しても本番まで間に合うかはわかりません。みんなの力も借りて間に合わせましょう。」と言われました。しっかり周りの人たちの力も借りて、演舞を作り上げることができました。一生の思い出になりました。これからはどんなかべがきても、乗り越えていきたいです。ありがとうございました。

「団長として感じたこと」  
6年4組 飛田旭陽（青団）

ぼくは運動会とその練習を通し、感じたことが2つあります。

1つ目はつまずきと不安です。応援団が始まって一週間はもう”非常に”と言っているほどグダグダでした。今思い返して、やり直したい点は星の数ほどあります。もっと順序を考えておけば・・・、プリントの整理をしておけば・・・でも応援団が始まって、初めての休日で方向性は変わりました。「ぼくがしっかりしないと団もはっきりできない。」そう思ったぼくは、日曜日に副団長と話し合い、計画を立てることができました。グダグダだった青団が最高と思える青団になったので良かったです。

2つ目は「努力は報われる」ということです。4分ジャストを目指しみんなで心を1つに練習を続けました。しかし、なかなか4分ちょうとは出ず、中間発表では3分49秒でした。この時はさすがに「大丈夫かな・・・」という気持ちも少しはありましたが、折れずにがんばりました。みんなで猛練習を続けました。それが報われたんだと思いました。本番は4分ちょうどを記録できました。ぼくも心の中が喜びでいっぱいになりました。つい手を振り上げてよっしゃあと叫んでしまいました。

ぼくはこの応援団で2つのことを学びました。1つは「あきらめないこと」です。もう1つは「努力は報われること」です。これを6年生として常に意識していこうと思います。そして最後にもう一つ、1分間スピーチで言った「限界を超えたその先に楽しい運動会が待っている」これは本当でした。

保護者の皆様、当日はコロナ対策へのご協力や子どもたちへの温かい応援、本当にありがとうございました。